

関節モビリゼーション施術 臨床報告 4月度

【 膝・足関節 】

患者氏名	日付	施術部位	効果	詳細
K. Hさん 83歳 (女性)	4/4	足j 足底	左背部痛 3→0	転倒後に痛めた左背部痛が2週間続いている。立位左荷重で左腰背部に過緊張あり。左足内反。足jモビリゼーションで荷重バランスが中央に矯正され、左腰背部の過緊張が消失し、痛みも消失しました。
	4/18	足j 膝	姿勢改善 実感○	左背部痛は動作時にわずかにあり。立位で骨盤後傾、膝軽度屈曲、左荷重。しゃがむと右膝IN。左下肢のみの施術で姿勢改善。荷重バランス矯正。右下肢の施術で膝INも矯正されました。
	4/25	膝 足J 足底	左背部痛 1→0	背屈で左背部痛わずかにあり。立位で左荷重、左背部の緊張強い。臥位でわずかに膝屈曲位も、膝モビリゼーションで改善。足底施術後に、左右荷重バランスが矯正され、背部の緊張も均等になりました。
S. Oさん 80歳 (女性)	4/22	膝	右膝痛 3→1	右膝蓋骨骨折後の慢性痛。臥位で右膝軽度屈曲。伸展方向へ誘導で痛みが強い。SHM無し。膝モビリゼーションで伸展やや改善し、痛みも軽減。膝窩筋施術でより改善。踵叩打で片足立ちの右支持力が改善。
	4/29	膝	右膝痛 3→1	立位荷重で右膝痛あり、歩行困難。伸展方向へ誘導で痛みあり。膝軽度屈曲（膝窩2.5横指）も、膝モビリゼーション後にやや改善（1.5横指）痛みも軽減。腓骨頭の可動後に、立位がとりやすいと実感あり。
M.Yさん 70歳 (女性)	4/4	足j 足底	腰痛 3→0	立位継続または体後屈で痛み出現。円背、骨盤後傾、膝屈曲の姿勢。右足内反。両足jモビリゼーション、足底施術で足接地感が改善し、姿勢が改善。右荷重も、中央へ矯正。体背屈での左腰痛が消失。
	4/18	足j 膝	腰痛 3→0	左足jへの施術で内反がやや改善。左膝モビリゼーション、膝窩筋施術で膝軽度屈曲が改善し、立位姿勢も改善。左腰痛がほぼ消失し、右下肢への施術後には、体背屈での痛みは消失しました。
N.Tさん 90歳 (男性)	4/19	足j 膝	下肢重だ るさ 2→1	右人工股関節術後の大腿部の重だるさ、大腿四頭筋、ハムストリングスの過緊張あり。右足内反、膝アライメント左右差無し。右腓骨頭の可動性乏しい。膝モビリゼーション後に改善し、重だるさやや緩和。
	4/21	膝	右下肢の 重だるさ	踵叩打で下肢全体の緊張がやや緩和。膝モビリゼーション、二頭筋の滑走性改善の施術後に腓骨頭の可動性が出てきて、足関節の可動性も改善。下肢全体の緊張緩和するも、本人の実感はありません。
	4/28	膝 足j	大腿の重 だるさ	徐々に重だるさの程度は軽減している実感はあると。臥位で膝関節はほぼ完全伸展していますが、膝モビリゼーション後には、さらに伸展していました。足jモビで足j可動性改善、下腿外側の緊張緩和しました。

その他 臨床報告

「施術効果が得られなかった症例」

・下肢の浮腫（2症例）

2症例とも施術回数は2回ずつ。膝関節以下に、顕著なアライメント変位、左右差はなし。

1症例は腎性浮腫。1症例は原因不明の浮腫（長時間端座による循環不良が原因の一部と思われます）アライメント変位はみられないものの、足関節の可動域はやや制限されていて、スムーズな関節可動が行えていないため、関節モビリゼーションによって関節の可動性が改善されれば、それに伴い循環が改善されるのではないかと、効果を期待して施術を実施しました。

→術後、足関節の可動性は改善がみられました。（膝関節の可動は術前後ともスムーズでした）
ですが、下腿以下の浮腫に著明な改善はみられず、患者本人の浮腫緩和の実感もありませんでした。

・膝関節屈曲拘縮（1症例）

施術回数3回。自立歩行不可で、介助しての車椅子への移乗動作は可能。両膝関節共に屈曲30度。

それ以上の伸展は不可。屈曲は行えますが、深屈曲は不可（踵が臀部には付きません）

膝伸展での end feel は、骨性であると思われます（突然伸展が止まり、それ以上は押しても一切伸展しません。無痛）

膝関節屈曲筋であるハムストリングスに強い筋緊張がみられるため、関節モビリゼーションとともに、筋の滑走性を改善する施術を繰り返し実施しました。

→術後、両膝関節の最大伸展角度、屈曲角度に著明な変化はみられませんでした。
モビリゼーション時の関節面の動きも、他患者と比較して、著しく可動性が乏しい印象でした。
術前後、術中いずれも無痛でした。

【全体の考察】

膝、足関節へのモビリゼーション施術及び、足底、ハムストリングス滑走性へのアプローチ施術は、昨年よりオリーブが取り組んできた従来のPT施術と比較して、その効果、理論的な裏付けにおいて、明らかに高い成果を出せる技術であると実感しています。

従来のPT施術も同様ですが、マッサージ施術と比較して、揉み返しや痛みを与えてしまうリスクが少なく、アライメントの矯正や姿勢改善など目に見える効果が出ることと、痛みが緩和した、無理なく立っていただける。など患者本人が効果を実感できる場合が多い。というメリットがあります。

技術の習得とそれに伴う知識を得なければならないため、施術全体の習得は決して容易ではありません。行う施術自体は単純なものですが、細かなコツや力加減など、とても奥が深いため、まだまだ練習が必要です。施術そのものは安全なものですが、患者の症状によっては一部リスクもあります。

人工関節患者には効きませんし、関節が不安定で動揺している患者への施術には、症状を悪化させてしまう危険性もあるため、施術が有用となるかの判断が施術前に必要になってきます。

単なる技術の習得ではなく、患者を評価、それに基づく治療法の組み立て、再評価。といった流れを行えるよう技術と知識、それをつなげて活かせるようレベルアップし、全施術者に技術を伝えられるよう頑張ります。

酒見